

会報 Bulletin



香川高専産業技術振興会設立より1周年

昨年平成21年8月28日(金)に設立総会を開催し、法人会員99社、個人会員10名、特別会員1団体と5名の参加を得て「高松工業高等専門学校産業技術振興会」として発足し、10月の高松・詫間両校の高度化再編に合わせて、「香川高等専門学校産業技術振興会」として活動して1年余りが経過しました。設立発起人代表を務めて頂いた(株)ヒューテック代表取締役社長平田喜一郎氏(写真)に会長をお引き受け頂き、副会長・理事等の役員の方々を始め、会員の皆様のご支援とご協力を得て今日を迎えました。



去る8月17日(火)には、設立後最初の総会を開催し、地域産業の発展と高専教育の充実のために、継続して活動が続けることが確認されました。会員の皆様のご協力とご支援に感謝しつつ、ここに会報創刊号を発行し、地域企業とのよりいっそうの連携を深めて参りたいと考えています。今後とも宜しくご協力のほどをお願い申し上げます。

目次

- 創刊にあたって・・・・・・・・・・・・・2
- 総会報告・・・・・・・・・・・・・6
- 活動報告・・・・・・・・・・・・・8
- 香川高専の活動紹介・・・・・・・・・・・・・9
- 会則及び会費に関する細則・・・・・・・・・・・・・12
- 役員名簿、会員名簿・・・・・・・・・・・・・14
- 事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・16

創刊にあたって



会長挨拶

(株)ヒューテック
相談役 平田 喜一郎



この度、嘉門校長先生はじめ関係者のご尽力によりまして香川高等専門学校産業技術振興会が発足されましたこと、地元産業界にとりまして誠に意義深いものがあると存じます。

香川の経済はストックには恵まれておりますがフローには弱いと言われております。これは県都高松が過去支店経済を中心として発展を遂げてこれたという恵まれた環境にあり、他方それに安住して努力を怠ってきたためかもしれません。

今後問題のフローを良くしていくためには何をすべきでしょうか。行政も企業も学校もあらゆる部門において時代の要請に沿った新しいビジネスモデルの構築に町ぐるみで取り組む必要があるかと思えます。これは国のレベルにおいても同様ですが、残念ながら国民が期待しているような方向には進んでいるようには感じられません。西郷隆盛や坂本竜馬のような人物が早く出てきて欲しいと願うばかりであります。

現況では国を頼らず自分ができる範囲から改革に取り組んでいく事が肝要かと思えます。特に企業においてはトップのリーダーシップで対応が可能であります。学校においては将来の日本を背負っていけるような“人づくり”に力を注いで欲しいと願います。自分だけが良ければいいというような風潮のある今日、大義を感じるような人物を育てることは困難な状況にあるかと思えますが、そのような校風にしていけば自ずから学生は育っていくものと考えられます。

本振興会は産業技術振興会と命名されておりますが、真の産業振興は目先の産業ではなく世界の社会的なニーズに応じられるものであり、最終的にはそのような課題に挑戦できる“人づくり”が求められます。産学が連携すればいろんな可能性が実現できると考えられますが、一番大切な共有できる目標は“人づくり”であり、それは同時に日本にとっても世界にとっても大切なものであります。勿論今話題の産学間における共同研究なども共有できる目標となる事は言うまでもありません。

産学連携は我々が実行可能な身近なものでありしかも地域において又広く我が国は勿論世界にも意義のあるものにつながってまいります。是非とも会員および学校の関係者のご理解とご協力を頂きこの振興会を地域の宝に育てて頂ければ幸いに存じます。

学校長挨拶

香川高等専門学校
校長 嘉門 雅史



常日頃は「香川高専 産業技術振興会」を通じて、当校の運営へ数々のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成21年8月に正法会員99社、10名の個人会員の陣容で高松高専産業技術振興会として発足以来、各種の活動に積極的にご参画いただき、現在では法会員106社、個人会員9名に及んでおります。

ご高承のとおり、高松高専は平成21年10月に詫間電波工業高等専門学校と高度化統合して、「独立行政法人国立高等専門学校機構 香川高等専門学校」となりました。両校のこれまでの特長を生かしながら、教育研究基盤の強化および教育内容の充実を図ることに努めています。これによって産業技術の進展に対応できる幅広い視野を持った創造力に富む高度実践技術者の育成を行うとともに、地域との連携をより一層積極的に推進することを目指していますが、「香川高専 産業技術振興会」はそのための力強い推進力となっていていただいています。今回発刊が遅れましたが「会報」の出版に至ったことを大変うれしく存じます。各企業の要望に基づいた出前授業や共同研究、学生のキャリアパスとしてのインターンシップ受け入れ、各企業紹介と就職支援などの産業技術振興会の諸活動が盛り込まれております。各方面でご尽力に深く感謝申し上げます。しかしながら、これまでの活動を振り返りますと、まだまだ不十分であって、各企業のご要請に答えた円滑でかつ活発な共同研究の推進にまでは至っていないのではないかと存じます。香川高専高松キャンパスの地域イノベーションセンターが窓口となっていますが、今後はこの拠点窓口をより活性化して、四国地区高専の地域連携の窓口になるように挺入れして参りたいと考えています。

また、ものづくり産業の担い手を世に送り出すことを大きな使命とする高専におきまして、コミュニケーション能力の向上、特に英語力の向上はきわめて重要な課題です。そこで香川高専では積極的に海外の大学と国際交流協定の締結をすすめ、現在韓国、台湾、ベトナム、マレーシアの5大学と締結済みであり、さらに中国、タイ、カナダの大学との協定交渉を始めています。これによって学生と教員の相互交流、国際会議の開催による研究情報交換が可能となっています。平成22年7月に香川高専では初めて国際会議を開催し、産業技術振興会の一部の会員企業からの技術展示をお願いしたところです。平成23年度もより規模を拡大して複数回の国際会議を開催するべく準備しておりますので、ご協力をよろしくお願いします。また、外国人による英語での専門課程の講義をカリキュラムに取り入れています。このような活動に高専生が主体的に取り組むことによって、各人の国際感覚の養成に役立てたいと考えています。

今後一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

地域人材開発副本部長挨拶

香川高等専門学校
地域人材開発本部
副本部長 高木 正夫



産業技術振興会の皆様には、日頃、香川高専をご支援いただき、有難うございます。高松高専と詫間電波高専が高度化再編統合して香川高等専門学校が設置され、早1年2ヶ月になります。新しい香川高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造性に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」であります。この使命を果たすために、香川高専は地域人材開発本部を設け、その下に高松キャンパスに地域イノベーションセンター、詫間キャンパスにはみらい技術共同教育センターを設けております。両センターは、地域企業の技術者の学び直し支援、小中学生の理科学支援、あるいは技術相談や共同研究などを通して地域産業の活性化のお役に立ちたいと活動しております。

地域人材開発本部は、四国の5高専の地域連携の拠点として香川高専に設置された四国イノベーションセンターを支援する役割もあります。今年7月には、関丈夫コーディネーターを(株)四国総合研究所から香川高専教授として招聘しております。現在、関コーディネーターは各高専の教員と面談し、教員のシーズの把握に努めております。次の段階で企業を廻ってニーズを聞き取り、教員のニーズとのマッチングを図ります。

企業からのニーズを基に高専教員のシーズを結び付けるニーズオリエンティッドなニーズとシーズのマッチングを目指します。これまで、高専側から教員のシーズの発信をシーズ集やWeb ホームページあるいは四国高専シーズ発表会、香川の大学・高専シーズ発表会等を通して行ってまいりましたが、シーズオリエンティッドではなかなかマッチングが取れません。そこで、企業の要望を聞き取り、高専教員のシーズとマッチングを取り、共同研究に結び付け、新しいイノベーションの創出を図りたいと計画しております。鋭意努力してまいりますので、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。



産学官連携コーディネーター挨拶

香川高等専門学校
地域人材開発本部

教授 関 丈夫



本年7月、地域人材開発本部に着任致しました関と申します。6月までは、(株)四国総合研究所において、研究成果の事業化や知的財産管理等に関わって参りました。

私は、四国地区産学官連携コーディネーターとして、地区内5高専の拠点校である本校に所属し、各校における連携活動へのご協力を進めることとなっております。現在は、各校において進められている研究内容についてご教示いただき技術内容の把握に努めるとともに、シーズ発表会をはじめとする連携イベント実施への協力等の活動を行っているところです。今後、四国全体を見渡し、各高専相互の連携ならびに国立高専機構との連携を図ることによって、より効果的な活動を進められるよう努める所存です。

全国には、北海道から九州・沖縄までの8地区に連携コーディネーターが配置されており、これらの方々と定期的に会議を持つなど情報共有を図っております。ここで得られた情報は適宜各校に提供し、それぞれの連携活動に役立てていただけるように致します。

「人財」と技術・ノウハウなどの「知財」は、地域の活性化にとりまして不可欠の財産であります。これらを育くみ、地域に提供して行く現場である高専に所属し業務に取り組めることは、貴重な経験の場をいただいたものと感謝しております。これまで企業で学んできたことを活かし、私の出身地であります当地香川をはじめとして、四国各地の皆様のお役にたてればと日々考えながら業務に当たっております。

産業技術振興会会員の皆様には、本校の教育・研究活動にご協力いただいているところであり、お礼申し上げます。新任コーディネーターではございますが、早く十分なお手伝いができるよう努力してまいりますので、皆様には、それぞれの事業内容やお持ちのニーズをご教示いただくなど、ご指導・ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

総会報告

- 日時 平成22年8月17日(火) 午後3時30分
 場所 全日空ホテルクレメント高松 3階 玉藻「西」
 次第 1. 会長挨拶 株式会社ヒューテック相談役 平田喜一郎
 2. 校長挨拶 香川高等専門学校長 嘉門雅史
 3. 議 事 第1事業年度事業報告案について
 第1事業年度会計報告案について
 会計監査報告
 第2事業年度事業計画案について
 第2事業年度予算案について
 4. 閉会の辞
 5. 交 流 会



第1事業年度事業報告案について

- I. 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展に関すること。
 - (1) シーズ発表会等の後援等
- II. 技術に関する講演会、講習会、研修会などの開催及び情報誌の発行。
 - (1) 講演会等の開催
 - (2) 講習会、研修会等の後援および案内
 - (3) イブニングセミナーの開催
- III. 技術分野での技術相談、情報交換に関すること。
 - (1) 共同研究・受託研究・技術相談の件数
- IV. 企業社員の研修等育成支援事業に関すること。
 - (1) 会員企業への出前講座
- V. インターンシップ、共同教育に関すること。
 - (1) インターンシップの受入れ先(平成22年度)
 - (2) 会員企業技術者の客員教授としての学生教育の実施
- VI. 企業説明会・見学会、卒業生による就職説明会に関すること。
 - (1) インターンシップ及び企業説明会、面談会への参加
- VII. 香川高専の教育・研究の充実、振興に関すること。
 - (1) 出前授業等への協力
 - (2) 国際会議等の協力
- VIII. その他、本会の目的達成に必要な事業に関すること。
 - (1) 振興会パンフレットの作成
 - (2) 振興会HPの公開



第1事業年度会計報告案について

収入の部

(単位:円)

事 項	予算額	概 要
会 費 収 入	3,240,000	
そ の 他 収 入	30,181	
合 計	3,270,181	

支出の部

(単位:円)

事 項	予算額	概 要
講演会等実施経費	174,600	講師謝金及び旅費
技術者育成事業経費	57,600	公開講座受講料
就職説明会実施経費	390,862	会場設営費
運 営 経 費	348,857	会場借上料他
次 期 繰 越 金	2,298,262	
合 計	3,270,181	

会計監査報告

会計監査人 (株)レクザム
取締役副社長 住田 博幸
(株)石垣
執行役員 開発部長 藤田 邦夫

第2事業年度事業計画案について

- I. 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展に関すること。
 - (1) シーズ発表会等の案内
 - (2) 産学連携先進地視察
- II. 技術に関する講演会、講習会、研修会などの開催及び情報誌の発行。
 - (1) 講演会等の開催(2回)
 - (2) 講習会、研修会等の案内・補助
 - (3) イブニングセミナー開催(月1～2回開催予定)
 - (4) 研究交流会の案内
 - (5) 教職員の会員企業訪問見学会
 - (6) 会報の発行
- III. 技術分野での技術相談、情報交換に関すること。
 - (1) 技術相談、共同研究、受託研究の促進
- IV. 企業社員の研修等育成支援事業に関すること。
 - (1) 会員企業への出前講座の実施、企業技術者養成講座(予定2コース)の実施
- V. インターンシップ、共同教育に関すること。
 - (1) インターンシップへの支援、企業技術者による学生共同教育の実施
- VI. 企業説明会・見学会、卒業生による就職説明会に関すること。
 - (1) 企業合同説明会の案内・補助
- VII. 香川高専の教育・研究の充実、振興に関すること。
 - (1) サイエンスフェスタへの企業展示依頼
 - (2) 発明コンテストの補助
- VIII. その他、本会の目的達成に必要な事業に関すること。
 - (1) 振興会パンフレット作成・配布
 - (2) 振興会HPの維持管理

第2事業年度予算案について

収入の部

(単位:円)

事 項	予算額	概 要
前 期 繰 越 金	2,298,262	
会 費 収 入	3,100,000	
合 計	5,398,262	

支出の部

(単位:円)

事 項	予算額	概 要
講演会等実施経費	200,000	講師謝金及び旅費
技術相談等経費	100,000	交通費他
技術者育成事業経費	1,937,200	イブニングセミナー他
インターシップ支援経費	100,000	交通費補助他
就職説明会実施経費	400,000	会場設営費
運 営 経 費	800,000	会場借上料他
予 備 費	1,861,062	
合 計	5,398,262	

活動報告

平成21年度インターンシップ及び企業説明会

香川高専産業技術振興会会員企業の採用担当の方をお招きしインターンシップ及び企業説明会を平成22年2月25日(木)に高松キャンパス第一体育館において開催いたしました。

この説明会は、本校学生が就職先又はインターンシップ先を選択するうえにおいて、企業の採用担当者の方と接し、会社概要及び採用状況などについて情報収集の場を設けることを目的としており、38社の会員企業に参加いただき、また、本校からはインターンシップを目的とした本科3年生と専攻科進学予定の本科5年生および就職を目的とした本科4年生と専攻科1年生が参加しました。



インターンシップ概要と協力会員企業一覧

平成22年度における学生のインターンシップ参加状況について報告します。今年度は、4年生全員にインターンシップへの参加を呼びかけたこともあり、参加学生の合計は205名となりました。そのうち45名が本会員企業様(22社)から受け入れにご協力いただいております。平成23年度も両キャンパスで4年生全員に参加を呼びかけますので、より一層の受け入れをどうぞよろしくお願いいたします。

会員企業名	参加数	会員企業名	参加数	会員企業名	参加数	会員企業名	参加数
(株)朝日段ボール	2	三協エンジニアリング(株)	2	四変テック(株)	4	(株)パル技研	1
オリエンタルモーター(株)	6	讃光工業(株)	1	伸興電線(株)	2	富士船舶装備(株)	1
川田工業(株)	3	(株)シーマイクロ	1	(株)タダノ	1	(株)四電技術コンサルタント	1
(株)五星	2	四国電力(株)	7	田村ボーリング(株)	2	(株)レクザム	2
(株)コヤマ・システム	1	四国ドック(株)	2	(株)トーコー	1		
(株)サカコー	1	四国旅客鉄道(株)	1	日東河川工業(株)	1		

イブニングセミナー報告

香川高専地域人材開発本部では、香川高専産業技術振興会会員企業を中心とした地域企業との地域連携を推進しています。この取組みの一環として今年度より、教員と企業等とのフランクでシームレスな産学連携の機会づくりのため、「イブニングセミナー」を始めました。これは、さまざまな技術シーズを持った本校教員が研究分野ごとに集まって話題提供を行うとともに、会員企業の方々とニーズ・シーズを含めた情報交換や名刺交換のための情報交換会を行おうとするものです。

これまでに実施したイブニングセミナーは下記のとおりですが、既に会場での相談案件が共同研究に進展するとともに特許出願の手続きに至る成果が得られています。

- 第1回 機械系部門： 6月30日(水)
- 第2回 電気系部門： 7月14日(水)
- 第3回 一般教育系部門： 8月25日(水)
- 第4回 建設系部門： 8月26日(木)
- 第5回 機械系部門： 9月28日(火)
- 第6回 電気系部門： 10月13日(水)
- 第7回 建設系部門： 11月10日(水)



企業見学会

香川高専産業技術振興会主催で、平成22年8月20日（金）に、香川高専の教職員による会員企業の見学会を開催しました。本校の教職員が、振興会会員企業をより深く知り理解する機会を設けるための試みとして企画したものです。

当日は、午前：（株）レクザム香川工場、午後：（株）タダノ志度工場を訪問しました。

（株）レクザムにおいては、住田副社長のご挨拶および会社説明の後、工場見学を行いました。その後、多様な分野への製品展開の取組みなどについて質疑が行われました。

また、（株）タダノにおいては、同社における人材育成について田中企画部長よりお話頂いた後、工場見学を行いました。最後の質疑では、海外展開の考え方や人材、高専生への期待することなどの意見交換が行われました。

この見学会には、両社合わせて、のべ40名の香川高等専門学校教職員が参加しました。



香川高専の活動紹介

パテントコンテスト

本校では、学生たちに自由な発想や創意工夫の大切さを体験してもらえるように3年前からパテントコンテストへの参加を推奨し、希望者に対して課外活動として指導を行っています。パテントコンテストによる支援のもと、2008年度には1件を出願し、取得まで行いました。また連続して2009年度にも1件の出願を完了し、審査請求中です。今年度は本科1年生からにも対象学年を拡大し、パテントコンテストに参加し、現在はその結果待ちです。高学年の参加学生になると自力で特許案件の考案から特許検索、出願書類作成までの一連の作業を行えるまでになってきています。高学年の学生が低学年の学生を指導するまでになってきており、これまでの3年間にわたる継続的な取り組みにより着実に知的財産教育が定着してきています。今後も独創性伸ばす教育プログラムとして今後も積極的に継続していく予定です。

香川高専第1回発明コンテスト

知的生産活動により得られた新規アイデアを個人の内に秘めておくばかりでなく、新規性の権利を明確に主張できることが、これからの技術者には要求されています。地域イノベーションセンター知的財産管理室では、香川高専の学生に知的財産の取り扱いや管理に対する啓蒙を進めるために、香川高等専門学校第1回発明コンテストを企画開催しております。これは、技術者としての道を歩む柔軟な思考を持つ香川高専の学生に、そのような権利主張を行う経験を通して自ら学ぶことを目的として企画したものです。この機会を通じて、現在は漠然としたイメージしか抱いていない知的財産権に対する理解を学生諸君が深めてくれることを期待しております。

発明部門は自由部門と課題部門からなり、自由部門は身の回りを便利にする発明。課題部門は高専での勉強、通学、部活、休み時間、放課後を便利にする発明を募集し、現在は発明書類の応募受付を終了し、これから発明内容のプレゼンテーションを経て、今年度内に審査結果の公表および表彰式へとコンテストプログラムを進める計画です。なお表彰に際しましては、特に優れた技術内容の発明に対して「香川高等専門学校産業技術振興会長賞（技術賞）」の授与を計画しております。

◆ 四国地区高専シーズ発表会（機械工学分野）

四国地区高専地域イノベーションセンター（センター長：高木正夫 香川高専副校長）では、5つの分野を四国地区各高専が分担して開催することとなり、本校においては機械工学分野を平成22年8月25日（水）に開催しました。この発表会については、高知高専へ講演のリアルタイム映像配信を実施しました。

発表会では、最初に基調講演としてパナソニック（株）の森脇信康氏に「家電商品におけるデジタルモノづくり」と題して、白物家電開発におけるC A E利用の実情と動向をご講演いただきました。講演については、ものづくり技術者のあり方、育て方など活発な質疑が行われました。

続いて、「DBD プラズマアクチュエータによる翼周りの剥離制御」大北裕司先生（阿南高専）、「光ファイバ振動センサを用いたヘルスマニタリング」明松圭昭先生（新居浜高専）、「経年劣化事故防止のための加速度試験法」陳強先生（高知高専）、「車椅子電動化装置の試作」由良諭先生（香川高専）の順番にご発表いただきました。各発表については、企業の聴講者や教員から活発な質疑が行われました。

最後の情報交換会においては、ポスター展示を含めて講演内容についての多くの情報交換が行われました。



◆ 香川発大学・高専連携シーズ発表会

平成22年9月14日（火）に香川大学工学部構内において、香川大学・徳島文理大学・香川高専共催による「香川発大学・高専連携シーズ発表会」を開催しました。このシーズ発表会は、高専・大学との連携強化に加え、共同研究等による地域社会への貢献を目的として、昨年度から開催しており、今回で2回目を迎えるものです。

発表会では、香川大学社会連携・知的財産センターの合谷センター長の開会挨拶ののち、2会場に別れて計15名の教員によるシーズ発表が行われました。会場には約100名の来場者が訪れ熱心に聞き入っていました。最後に香川高専地域人材開発本部の高木副本部長より閉会の挨拶があり、これからの地域社会への貢献などの抱負が述べられ、発表会の幕を閉じました。



◆ 企業技術者等活用プログラム

本校では、今年度、高専機構の実施する企業技術者活用経費によって「企業技術者等活用プログラム」を実施しています。

これは、振興会会員などの地域の企業技術者やOB等を共同教育スタッフ（客員教授など）として招へいし、学生を対象にした「創造的ものづくり技術者育成」と教員の地域連携推進のために、主要実践科目と「ものづくり関連科目」の充実・高度化や、地域産業に密着した実践的技術教育などに取り組むものです。

具体的には、のべ51名の技術者の方に、1200時間余りの時間においてご協力いただいております。



◆ ものづくり人材育成事業

本校では、全国中小企業団体中央会からの委託を受けて、ものづくり分野の人材育成・確保事業のうちのものづくり担い手育成事業を、6月～12月の間、（財）四国産業・技術振興センターを管理法人

として実施しています。

これは「実践型ものづくり課題解決能力養成研修」として、若年・中堅技術者を主対象に、日常業務に活用できるソリューション技法を学び、将来の所属業界活性化のリーダーあるいは、イノベーションコーディネーター候補を養成しようとするもので、4コース（機械設計38時間、電子計測26時間、材料分析38時間、構造物形成26時間）で、それぞれ定員10名で実施しています。

かがわ産業支援財団ファンド事業

本校では平成21年度より(財)香川産業支援財団の「かがわ中小企業応援ファンド事業高度技術人材育成事業」の一環として社会人向けの各種技術セミナーを開催して来ました。このファンド事業は、中小企業者や地場産業関係組合等が実施する研究開発や販路開拓、人材育成等の事業に対し助成を行っているものです。

これまで実施したもの及び実施予定のセミナーのテーマ及び概要は以下の通りです。

○評価版でできる有限要素法セミナー

安価な評価版有限要素法解析プログラムを有効に利用するための基礎的な技術を習得する。

○設計プロセスセミナー

3次元CADを用いた設計プロセスの高度化について基礎的な技術を習得する。

○流体解析入門セミナー

汎用熱流体解析プログラムを有効に利用するための基礎的な技術を習得する。

○疲労試験S-Nデータ回帰法

日本材料学会標準として、金属材料疲労信頼性評価標準【S-N曲線回帰法】が出版されている。冊子とS-Nデータを作画するソフトウェアが附属しており、実用的に優れている。この使い方を講習する。

○組込み技術入門セミナー

新入社員など組込みプログラム初心者に対し、組込みプログラムの基礎について講義する。

○組込み技術初級セミナー

入社2～3年目の技術者を対象として、基本となる技術要件をチェックし、技術力を振り返ることで、今後の飛躍の足固めを行う。

○組込み技術リーダーセミナー

これから技術リーダーとして活躍が期待される技術者を対象に、プロジェクト管理の概要を知り、品質管理を中心としてプロジェクト管理に必要な技術項目の習得をめざす。

全国高等専門学校ロボットコンテスト2010全国大会結果について

平成22年11月21日(日)、東京両国国技館で開催され、詫間キャンパスからは12年連続出場となる「Cyclone」(サイクロン)が、高松キャンパスからは4年ぶりに「歩けー」(アルケー)が出場しました。

全国大会2連覇を目指す「Cyclone」は、2回戦、準々決勝を順調に勝ち進み、準決勝で優勝した鹿児島高専の「Rose Road」と対戦しました。その結果、僅差で敗れはしたもののベスト4に入りました。

一方、四国大会において審査員推薦で全国大会出場が決まった出場校の中でただ1校だけドライバーに女子学生を擁する「歩けー」は、開幕戦で金沢高専の「夢ロボー世」と対戦しました。しかし、歩き出して5秒でメカ的なトラブルのため走行できなくなり、悔いの残る初戦敗退となりました。



詫間キャンパス
「Cyclone」(サイクロン)



高松キャンパス
「歩けー」(アルケー)

会則 及び 会費に関する細則

香川高等専門学校産業技術振興会会則

(名称)

第1条 本会は、香川高等専門学校産業技術振興会と称する。

(目的)

第2条 本会は、地域産業界と香川高等専門学校（以下「香川高専」という。）との連携を深め、香川高専が有する人・知・物的資源を活用し、技術交流や情報交換等各種事業を通し、地域産業の発展を図るとともに、香川高専の教育研究の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展に関すること。
- (2) 技術に関する講演会、講習会、研修会などの開催及び情報誌の発行。
- (3) 技術分野での技術相談、情報交換に関すること。
- (4) 企業社員の研修等育成支援事業に関すること。
- (5) インターンシップ、共同教育に関すること。
- (6) 企業説明会・見学会、卒業生による就職説明会に関すること。
- (7) 香川高専の教育・研究の充実、振興に関すること。
- (8) その他、本会の目的達成に必要な事業に関すること。

(会員)

第4条 本会は、本会設立の趣旨に賛同する次の会員をもって組織する。

- (1) 法人会員 国内外の企業及び団体法人
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同する香川高専卒業生等
- (3) 特別会員 大学、官公署、商工会議所等の公的機関、香川高専教職員

(役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 理 事 若干名
- (4) 幹 事 2名

(役員を選出)

第6条 役員は、総会において会員のうちから選出する。

(役員の仕事)

第7条 会長は、本会を代表し本会の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 理事は、本会運営に関する事項を処理する。
- 4 幹事は、会長を助けて会務を処理する。

(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 役員に欠員が生じた場合は、必要に応じて補充する。ただし、補充された役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第9条 会議は、総会及び役員会とする。

(総会)

第10条 総会は、会員をもって構成し毎年1回開催する。

- 2 会長は、総会の議長となる。
- 3 総会において審議する事項は、次のとおりとする。
 - (1) 運営の基本方針に関すること。
 - (2) 事業計画並びに予算・決算に関すること。
 - (3) 役員の仕事に関すること。

(4) 会則の改正に関すること。

(5) その他本会の目的達成に関すること。

4 総会は法人会員及び個人会員の過半数の出席（委任状を含む。）をもって成立し、議事は出席者（特別会員を除く。）の過半数の同意を以て議決する。

（役員会）

第11条 役員会は、第5条に定める役員をもって構成し必要に応じて会長が招集する。

2 会長は、役員会の議長となる。

3 役員会において審議する事項は、次のとおりとする。

(1) 本会の事業、会計及び運営に関すること。

(2) その他会務遂行上必要と認められること。

4 役員会は年度末に会務ならびに会計報告を作り、総会で会員の承認を受けなければならない。

（経費）

第12条 本会の運営経費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。

（事業年度）

第13条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年の8月31日に終わる。

（事務局）

第14条 本会は、香川高専地域イノベーションセンター内に事務局を置く。

（その他）

第15条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関して必要な事項は、役員会においてこれを定める。

附則

1 この会則は、平成21年8月28日から施行する。

2 この会則施行後において最初に選任される役員の任期は、会則第8条第1項の規定にかかわらず、平成23年8月31日までとする。

3 この会則施行後の最初の事業年度は、会則第13条の規定にかかわらず、平成21年8月28日から平成22年8月31日までとする。

附則

この会則は、平成21年10月1日から施行する。

香川高等専門学校産業技術振興会会費に関する細則

（目的）

第1条 この細則は、香川高等専門学校産業技術振興会の会費に関し、必要な事項を定める。

（会費の額）

第2条 会費は年会費とし、次の各号のとおりとする。

(1) 法人会員 3万円

(2) 個人会員 1万円

(3) 特別会員 免除する。

（納入時期等）

第3条 前条に定める会費の納入は、入会時及び毎年度（入会年度を除く。）9月末日までに納入するものとする。

2 納入された会費は、原則として返還しない。

附則

この細則は、平成21年8月28日から施行する。

附則

この細則は、平成21年10月1日から施行する。

役員名簿、会員名簿

◆役員名簿

企業名	職・氏名	役職
(株)ヒューテック	相談役 平田喜一郎	会 長
(株)タダノ	執行役員常務 児玉 義人	副会長
(株)百十四銀行	取締役常務執行役員 泉川 貴昭	副会長
(株)石垣	代表取締役社長 石垣 真	理 事
鹿島建設(株)	執行役員四国支店長 安藤 進	理 事
川田工業(株) 四国工場	工場長 内田 修平	理 事
(株)四国総合 研究所	代表取締役社長 新田 芳樹	理 事
四国電力(株)	常務取締役 武井 邦夫	理 事
四国旅客鉄道(株)	専務取締役 鉄道事業本部長 半井 真司	理 事
(株)レクザム	取締役副社長 生産本部長 住田 博幸	理 事
オリエンタル モーター(株) 高松事業所	高松地区 渉外担当部長 中野 典之	幹 事
香川高等専門学校	教授 山内 庄司	幹 事

◆会員名簿(五十音順)

法人会員

葵機工(株)
 アオイ電子(株)
 株式会社朝日段ボール
 株式会社綾野製作所
 株式会社アルファ建築空間
 株式会社石垣
 泉鋼業株式会社
 株式会社今井鉄工所
 株式会社ウズマキ
 宇部三菱セメント株式会社
 株式会社エイト日本技術開発
 株式会社エスビーエフ
 株式会社OAシステムシャープ
 株式会社大林組四国支店
 株式会社奥村組四国支店
 オリエンタルモーター株式会社高松事業所
 香川シームレス株式会社
 鹿島建設株式会社
 カトーレック株式会社
 株式会社川上板金工業所
 川崎化工株式会社
 川崎地質株式会社四国支店
 川田工業株式会社四国工場
 株式会社川西水道機器
 基礎地盤コンサルタンツ株式会社四国支店
 木下製粉株式会社
 株式会社弘栄社
 株式会社五星
 株式会社コヤマ・システム
 坂出機工株式会社
 株式会社サカコー
 三協エンジニアリング株式会社
 株式会社三光エンジニアリング
 讃光工業株式会社
 三和電業株式会社
 株式会社シーマイクロ
 株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア

株式会社四国総合研究所
 株式会社四国電子計算センター
 四国電力株式会社
 四国ドック株式会社
 四国プラスチック株式会社
 四国旅客鉄道株式会社
 四変テック株式会社
 清水建設株式会社四国支店
 伸興電線株式会社
 住友大阪セメント株式会社四国支店
 瀬戸内金網商工株式会社
 株式会社セリックス
 株式会社ソアテック
 第一衛材株式会社
 大成建設株式会社四国支店
 太平洋セメント株式会社関西四国支店
 高松産業株式会社
 高松帝酸株式会社
 株式会社竹中土木四国支店
 株式会社タダノ
 株式会社タダノエステック
 株式会社タダノエンジニアリング
 タチバナ工業株式会社
 株式会社ダックス
 田村ボーリング株式会社
 株式会社チェリーコンサルタント
 中央開発株式会社関西支社
 株式会社ちよだ製作所
 筒井鉄工株式会社
 東洋建設株式会社四国支店
 株式会社東洋製作所
 東洋炭素株式会社詫間事業所
 株式会社トーコー
 株式会社中村技研
 南海プライウッド株式会社
 株式会社南條工作所
 西松建設株式会社四国支店
 株式会社日進機械
 日東河川工業株式会社
 株式会社NIPPO四国支店

日本工営株式会社四国支店
 日本興業株式会社
 日本国土開発株式会社四国支店
 株式会社ハイテック
 株式会社パブリック
 株式会社パール技研
 株式会社ビットコミュニケーションズ
 株式会社百十四銀行
 株式会社ヒューテック
 世光加工有限会社
 有限会社ファイトロニクス
 ブイテック株式会社
 富士船舶装備株式会社
 扶桑建設工業株式会社
 前田工織株式会社四国営業所
 株式会社マオ力設計
 有限会社正木鉄工所
 株式会社丸善
 三菱電機エンジニアリング株式会社丸亀事業所
 三村鉄工株式会社
 株式会社村上組
 株式会社森川ゲージ製作所
 株式会社大和製作所
 株式会社湯谷機械製作所
 株式会社四電技術コンサルタント
 ラモナー株式会社
 株式会社レクザム
 株式会社ワイイーエス
 株式会社ワイジーテック

個人会員

今井正三郎
 十河 浩
 高出 成昭
 中野 安浩
 原 卓雄
 平井 勉
 松川 久俊
 三谷 朋幹
 村雲 治

事務局からのお知らせ

●平田会長の叙勲受章のご紹介

このたびの秋の叙勲におきまして、本会の平田喜一郎会長が旭日双光章を受章されました。ご存知のとおり、平田会長は株式会社ヒューテックの代表者として経営・技術開発に長年ご尽力され、また、香川県を中心とする中小企業の振興・経営指導にもご尽力されております。このたびの受章は、本会としても大変名誉なことであり、心からお祝い申し上げますと共に、会員の皆様に謹んでご紹介させていただきます。

●今後の予定

「平成22年度インターンシップ及び企業合同説明会の開催について」

- 趣 旨：本校学生が就職先又はインターンシップ先を選択するうえにおいて、企業の採用担当者の方と接し、会社概要及び採用状況などについて情報収集する場を設けます。
- 開催日：平成23年2月24日（木）午前中
- 開催場所：香川高専高松キャンパス第1体育館
- 対象企業：香川高専産業技術振興会会員企業
- 参加学生：本科3年生、4年生及び専攻科1年
- ※会員企業様宛のご案内は1月初旬にお送りいたします。

●事務局スタッフ紹介

所 属：総務課研究協力係長

氏 名：寺井 慎二

趣 味：ゴルフ（HC18）、テニス

一 言：会員の皆様にお役に立てるよう、敷居の低い窓口を目指しております。いたらぬところもあるかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。



所 属：総務課研究協力係

氏 名：小橋 秀行

趣 味：映画、ドライブ

一 言：研究協力係では、共同研究、受託研究等、契約事を担当しております。未熟な点が多々ございますが、誠心誠意努力致しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



所 属：総務課研究協力係

氏 名：川端 綾子

趣 味：スポーツ観戦（主に子供のサッカー）、読書（好きな作家は伊坂幸太郎氏）

一 言：この7月から香川高専でお世話になっており、見た目と違ってまだまだ未熟者です。イブニングセミナー等で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



編集後記

昨年8月に当振興会が発足し、1年数ヶ月が経過しました。遅くなりましたが、会報創刊号を発行することができました。ご協力頂いた全ての方々に感謝申し上げます。

この会報は、香川高専と会員の皆様とを繋ぐ情報交換の場と共に、会員の皆様の相互交流の場となることをも願っています。年2回の発行をめざして、より一層中身の充実したものとなるよう努力いたします所存です。会員の皆様方の忌憚のないご意見、ご助言を頂けますと幸いと存じます。

本会の活動を含めまして、今後ともよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

香川高専産業技術振興会事務局

〒761-8058

香川県高松市勅使町355

香川高専総務課研究協力係

TEL: 087-869-3815・3818

FAX: 087-869-3819

E-mail: kenkyu@t.kagawa-nct.ac.jp